

収穫後もしっかり対策！

イネカメムシ



～次年度大発生させないために～

県内で問題となっている「イネカメムシ」が、令和7年度は川越農林振興センター管内でも多発しています。

イネカメムシは、水稻の収穫後に越冬に向けて準備を開始します。

越冬個体数を減らし、次年度の被害を軽減できるよう、これからできる対策を行いましょう。



①イネカメムシ成虫
(川越市)

◆ 収穫後にできる対策 ～ひこばえを残さない！～

イネカメムシは、収穫後の稲株から生えるひこばえから出る穂(二番穂)を吸汁することで越冬のための栄養を蓄えます。

そのため、収穫後は

ほ場に稲株を残さない

ことが重要です。

収穫後は早めに耕うんを行い、稲株をしっかりと枯らしましょう。



②ひこばえを加害するイネカメムシ
(左:成虫、右:幼虫)

川越農林振興センターでは、ホームページにてイネカメムシの発生状況などを更新しています。イネカメムシに関する最新情報は右のQRコードよりご確認ください。

